

MassCore 2





MassCoreの概要

MassCoreは、DSPボード(Mykerinos)を増設せずにソフトウェアのみでPyramixのプロセッシング・パワーを増強できる極めてパワフルなソフトウェア・オプションです。

Mykerinosカードのソフトウェア・ライセンスとして提供され、Core 2 Duo以降のマルチコアCPUを搭載したPyramixのPC環境において、オペレーティング・システムに依存しない、真のリアルタイム・エンジンを実現します。

MassCoreオプションは、オペレーティング・システム(OS)によってもたらされていた「レイテンシー」と「プロセッシングの制限」を打破し、Pyramixに大規模な256チャンネルのバス構造と16~256のスケラブルな入出力チャンネルを提供します。

MassCoreは、以下のような機能を有効にします：

- 大規模なミキサー構成
- 低レイテンシー設定 (Extra 2.66ms および Ultra 1.33ms)
- VS3およびVSTプラグインのディレイ補正
- バスおよびAUXへのVSTインサート機能
- VSTのマルチチャンネル対応
- 外部インサート(フィジカル・エフェクト)
- 外部デバイスのモニターおよびトークバック
- パーチャルASIOのサポート

Windows XPにおけるブートの選択

Windows XP Proを使用されている場合、Windowsのブートが始まる前段階において、**P.O.S.T**(Power On Self Test)画面の表示の後にブートの選択画面が現われます。

この画面では、以下の選択ができます：

“**Windows 7**”

および

“**Windows 7 MassCore**”

“Merging Technologies MassCore” を選択して下さい。
または、30秒後に自動的にMassCoreモードで起動します。

Coreロード・インジケータ

MassCoreが動作しているシステムでは、DSPインジケータに代わって2列のCoreロード・インジケータがステータス・バー上に表示されます。

Core: xxx% または **Core*: xxx%**

* は、専用モードの印です。

Coreロード・インジケータのパーセンテージは、**MassCoreロード(リアルタイム & バックグラウンド)**または**VST Coreロード**のいずれかが高く消費されている方の数値を表示します。以下のスクリーンショットの場合、MassCoreよりもVST Coreのロードの方が高く、**"Core: 100%"**はVSTプラグインの為のパワー(リソース)が不足している状況を示しています。

MassCoreリアルタイム・ロード

リアルタイムプロセスのためのMassCoreロード状況を示します。
(**明るい緑色**のバー, 高負荷の時は**オレンジ色**, **赤色**はオーバーロード)

MassCoreバックグラウンド・ロード

バックグラウンド処理のためのMassCoreロード状況を示し、MassCoreリアルタイム・ロードのインジケータの横に表示されます。これは、Algorithmixプラグインを使用する場合などに使用されます。
(**暗い緑色**のバー)

VST Coreロード

VST処理のためのVST Coreロード状況を示します。
(**青色**のバー, 高負荷の時は**オレンジ色**, **赤色**はオーバーロード)

定期的にVST Coreロードの表示がドロップしているときは、以下のスクリーンショットのように瞬間的なピークが起こっている可能性があります:



それとは対称的に、以下のスクリーンショットは100のトラックと入力ストリップを持つプロジェクト構成で、僅かにVSTプラグインを起動しているときのCoreロードを示しています:



この場合、**VST Coreロード**よりも**MassCoreリアルタイム**の方が高くロードされているというインジケータの見方になります。

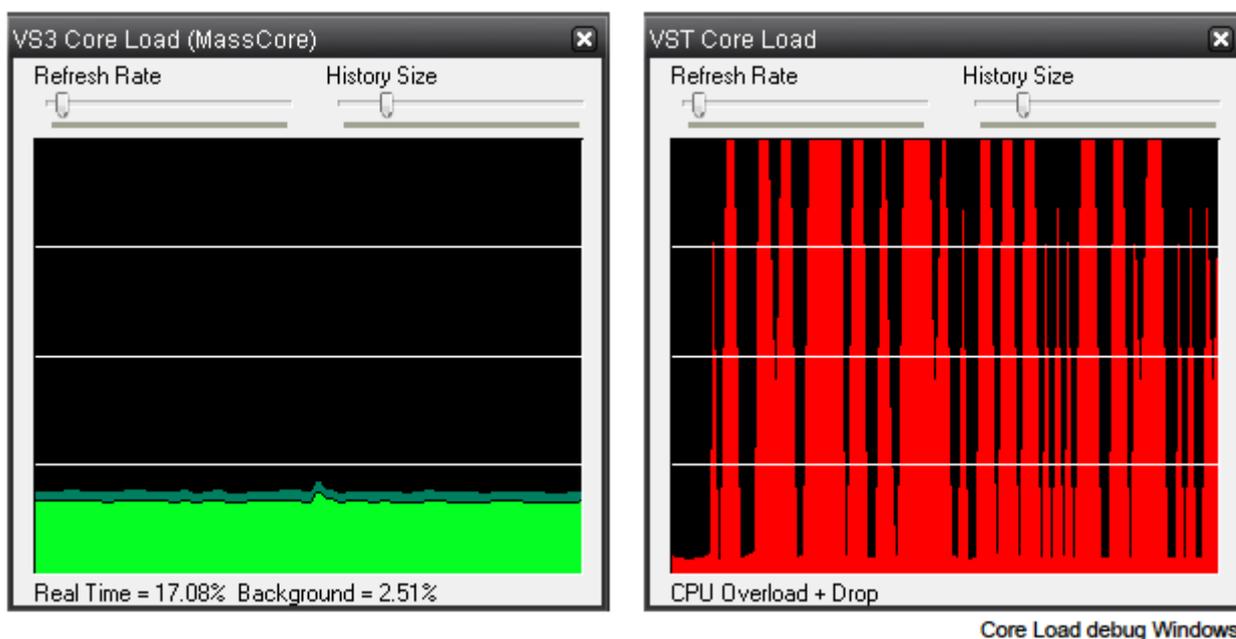
VST Coreロード with Quadコア



システム環境がQuadコアの場合、**VST Coreロード**のバーは2行になって表示されます。

上記3つのスクリーンショットにおいて、左側のバーグラフについてはディスクのバッファを示しています。

さらに詳しく情報を得たい場合は、メーター上で**Shift + Click**をして下さい。
以下のような**Coreロード**のデバッグ画面が開きます：



もし、上記スクリーンショットのように**VST Coreロード**が表示される場合は、**VST Plug-ins engine Latency**の値を増やすことをお勧めします。

大容量バッファを必要とするようなVSTプラグインを効率的にサポートするために、**All Settings > Hardware > MassCore**ページで**VST Plug-ins Engine Latencies**のバッファ・サイズを8192smp(サンプル)程度まで増やしておくことを推奨します。

Note: パラメーターの調整は、プロジェクトを閉じた状態で行って下さい。

重要! 動作の低下が生じた場合Coreインジケーターが点滅します。リセットするには、インジケーターの上をクリックします。

重要事項!

グラフィックの描画速度などに不具合が生じるのを避けるため、Coreリソースの使用率は65~70%以上にならないよう作業される事をお勧めします。

Coreロード・インジケーターには、3つのカラー・ゾーンが設定されています：

0%~65% **Greenゾーン** (快適なパフォーマンス)

65%~75% **Orangeゾーン** (適度なリスク)

75%~100% **Redゾーン** (パフォーマンスの続行が危険な状態です。グラフィックの描画速度などにも影響が起り始めます)

MassCoreのレイテンシー・モード (Pyramix V6)

Mykerinos/Latency (Note1)	Low Latency (5.33ms)	Extra Low Latency (2.66ms)	Ultra Low Latency (1.33ms)
MYK-MB1	✓		
MYK-MB2	✓		
MYK-MB3	✓		
MYK-MB4	✓		
MYK-MB5	✓		
MYK-X30	✓	✓	✓
MYK-X50	✓	✓	✓

Note 1: レイテンシー・モードの設定は、相対的なパフォーマンスに影響します。